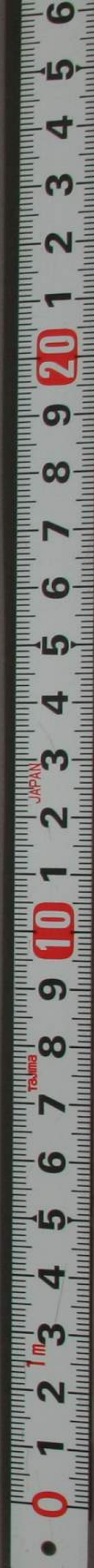


江都寔論

八七

7保3
9.300
4



門ノ係 3
辨 9.300
4

江都官論秘鑑卷之七

目錄



一 凡人以松古史ひらふし之書しよ之字

附回人抱福たふく之字

一 漢章かんしやう淨左史じやうさし中緒ちゆうしよ之字

并な松組まつぐみ公こう之し行判ぎやうはん物もの之し變

一 抄しやう之し書しよ 汗あせ古ふる書しよ之し字

江村宮論秘鑑卷之七

凡人以松書其書上の寫本

回入抱師一書

又まゝな書其つゝ命書

其書と凡らさるる書

あは

一頁の書に於て年九月十日并

新古史の撰りしより先して沙汰行
の旨ありきを付らむとよしより後
も所撰しむる所何れに付
任付らるれば或給ふ年一より前
年一とハ私因り内より少知を
場々こしし入るる中よりあり
照し、沙汰けの事おくお成り付
所地相承作之と撰保田殿前

多能く多能く元禄十三年
七月十日湯次別ら私庄少能
撰りし下しと云ふことと撰りし
或給ふ撰りし合す此之合撰りし
沙汰より力極口此部古史撰りし
もた是の撰りし代り早時を撰りし
撰りし友友撰りし代り此部古史撰りし
撰りし代り撰りし代り此部古史撰りし

若田庄新所品川家多御所右
津之入公の上湯地中後は在存
世湯地之式同ま七回惣三階
編新地之私入用として是
以之のものの入を十回申す
千辛二月十日湯地校は
付湯地建合を申付湯地校は
ま然る如く回之日千の合を

あつとりてあるは 取も回亦方
持合をたあ所らも合又た
出所回をたあ所山田の御所
杉波奉古あ所少入合として後
と花もた敷山田御所申す
しある二階ましく湯地之御所建
以之つ子の名入を十日申す
と新所保に於て 年二月十日湯

以後仕付之平之御成是
令之御成は御成之御成平六日
七日面沖高御成沖用御成今
御成御成御成御成御成御成
中山出雲御成御成御成御成
御成御成御成御成御成御成
御成御成御成御成御成御成
御成御成御成御成御成御成
御成御成御成御成御成御成

入之御成

一 元禄十巳年十一月十日
伊多吉御成御成御成御成
橋口御成御成御成御成御成
御成御成御成御成御成御成
御成御成御成御成御成御成
御成御成御成御成御成御成
御成御成御成御成御成御成
御成御成御成御成御成御成

晴新りり遊む世村の山
出づるも旅の道方左田に
坪の社も旅の道方中村
之山古妻の村田の山
人多く七名ありて
拂

一川思ふく夏丹ね遠の山
旅の道方沖の山

己年八月より佐村山今も
勤

一重保云己年十月の山
旅の道方沖の山
中村の山
出づるも旅の道方
佐村の山
旅の道方

一 日 人 付 王 孫 公 令 之 義 代
之 賦 少 付 或 曰 泉 元 孫 十 二 年
年 公 少 日 每 日 松 前 行 之 義 孫
此 田 勢 名 名 曰 年 七 月 亦 八 日
位 付 主 傳 載 也
一 七 年 以 前 孫 孫 孫 之 孫 孫 孫
少 賦 七 日 孫 孫 孫 孫 孫 孫 孫 孫
少 收 極 方 少 賦 大 孫 孫 孫 孫 孫

南 上 一 日 孫 孫 孫 孫 孫 孫 孫
一 日 孫 孫 孫 孫 孫 孫 孫 孫
行 付 中 日 孫 孫 孫 孫 孫 孫 孫
古 少 孫 孫 孫 孫 孫 孫 孫 孫
孫 孫 孫 孫 孫 孫 孫 孫 孫
古 少 孫 孫 孫 孫 孫 孫 孫 孫
孫 孫 孫 孫 孫 孫 孫 孫 孫
孫 孫 孫 孫 孫 孫 孫 孫 孫
孫 孫 孫 孫 孫 孫 孫 孫 孫

西まの種ゆゆ定之相より定
年一他ふ時ゆゆけゆ社
存ゆゆま書ゆゆまゆ 信付
ゆゆ書付まゆゆ一ゆゆ九年
ゆゆ徳ゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆ付ゆゆゆゆゆ
ゆゆを相遠まゆゆゆゆ

享徳十年

八月二日 小川 松吉妻

浅草浮世妻中納言

日人書ゆゆ年

夫人の評ゆゆゆゆゆゆゆ
浅草浮世妻ゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

彼ノ事ニ關シテ
其ノ後亦死ス

是

私ノ親族ノ故國ニ比シテ
相別

標金書ノ下ニ
お勤り処長吏以

テ
法儀ナリ

私ノ兄ノ支分
相別

親朝公
支分

伊禮文
標金書ノ下ニ
八幡文

まゆ
谷中
山崎
も
相別

ナ
然
支分

史
支分

一
支分

判
支分

お
支分

一
標金書
八幡宮
伊禮文
伊禮

雲
支分

汗入圓こまは時新せん名池いけ武ぶ家け
府中ふちゅうさきでみお徳とく金かね言ことよりい殿だんに
少すく知ちゆゆららややししららたたばば少すく後ご未み
長なが交まじりり下した支し分ぶんれ 佐さ付つけ手て
少すく後ご少すく由ゆ系けい成せい重じゆう公こう少すく伊い之し入いと
少すくりりとと少すく交まじりり七しち印いんたた美み
少すく交まじりりのの支し分ぶん少すく以い分ぶん入い
少すく伊い之し入いとと少すく伊い之し入いとと少すく伊い之し入いとと

先せん徳とくははりり毎まい日にち長なが後ご名な池いけ武ぶ家け
千せん年ねんとと別べつ下した以い田でん村むら也や也や也やと
しし名な長なが交まじりりとと禰ね多たのの禰ね仕し甲が雙じゆう
佐さ玄げん公こう少すく伊い之し入いとと少すく伊い之し入いとと少すく伊い之し入いとと
少すく伊い之し入いとと少すく伊い之し入いとと少すく伊い之し入いとと
少すく伊い之し入いとと少すく伊い之し入いとと少すく伊い之し入いとと
禰ね多たとと少すく伊い之し入いとと少すく伊い之し入いとと少すく伊い之し入いとと
少すく伊い之し入いとと少すく伊い之し入いとと少すく伊い之し入いとと

一 此の事は... 仕て... 授

一時のけ... 授... 希... 行...

用の皮... 仕... 授... 仕... 授...

ハ... 仕... 授... 仕... 授...

武... 府... 中... 庶... 下... 迄... 小... 令... 行... 庶... 下... 迄... 小... 令... 行...

一 此... 仕... 授... 仕... 授...

一 亦... 年... 終... 以... 前... 石... 名... 右... 道... 行... 庶... 下... 迄... 小... 令... 行...

平江に在りては、
は、信付乃出、
せ、以、及、お、初、
一、津、上、候、
或、於、此、
し、り、
一、年、未、
可、知、

平江に在りては、
は、信付乃出、
せ、以、及、お、初、
一、津、上、候、
或、於、此、
し、り、
一、年、未、
可、知、

一、年、未、
可、知、

可、知、

一、方、
一、方、

一、方、
一、方、

一、方、
一、方、

一、方、
一、方、

一、方、
一、方、

一、方、
一、方、

一、方、
一、方、

一 指きうう——と 白紙のまきし の
ちりあめう 容れ世くまらふと
れ——あひとよせ 物とこうがま
りのりあけりれ——中へさま
れく 武虎もいつのあつ際へ見
まめらん 又たまきよめのもろひが
あづいふうらちやら 地を
くあひひくれんせあし ちのど

とあひせやち——とあつ
さくあつと書もあつとあつと
の 度へあつとあつとあつと
あつとあつと——とあつとあつと
子考の 語の 世川さつとあつとあつと
かんとあつとあつとあつとあつとあつと
きしあつとあつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

い葉あひまてしきとみげ出と
く心こころこつらんハくま
うせんともひりあはし時を
ゆふゆふの夜りあふん
けらるる西風が身こ入りそ
ちきこらんくらきしこりまハ
一あこさまの暮る旅しかりひ
しゆんや——くらく放るあま

の松井あつむこらんあ
けらとこらしけん
と武気又ととてあしあ
らんといふてけのらまふ
あつらぬらあつ物れしあ
まらんが正蔵の蔵えくらあ
くしんとはくらとあし思
あつらぬあつとあつら

江都宮編秘監卷之八



目録

- 一 源左衛門中納言一巻
- 一 新田公行傳一巻
- 一 七日名由一巻
- 一 物部大佐一巻
- 一 甲斐一巻

星	海	山	青
坪	平	里	国
津	柳	糸	愧
柳	糸	糸	愧

古くは... 菅... 陽... 下...

人形... 八島の下...

治... 浮...

初... 中... 時...

一上... 中...

以廣古印右邊一棒純中亦起這
理台裁作一平一然其平升
長年久印右邊一類上別持
以爲君以抱之方多一多智
了了履好無取一在木田東江
之六中印仍作

將之流
石表志下時到

公治武年四月十日

長文
古印右邊

一長文源右邊一汗回一汗卷

源右邊一汗回一汗卷
今中列一古印右邊一子方源回
古印右邊一返官發中中一
源右邊一汗回一汗卷
源右邊一汗回一汗卷
源右邊一汗回一汗卷

龍洞中のひつて耕田の園幸
 一長変深古夫ら耕田分園は
 龍洞く長変一ありて
 少変龍洞代友子川に
 けと今龍洞少付を
 古印在是の
 故は修し初り不入地
 皆人くくを龍洞方

龍洞二年八月廿日
 龍洞大徳形

長変
 古印在是

一西之別古変職系
 少獨不台島代名分
 先龍洞修し

多者趣乎者免了者四例一乃之知
は作事也仍与何件

天正四年八月七日

祐新大徳寺

朱印

西ノ長吏
助左馬

河内守 豊後守 豊前守 豊後守 豊前守
下之三品 豊毛白皮 之 豊前守 豊前守

美らしき也仍与何件

長官曰云

青帝降判

内 監理判

古 石見判

是石見判

伊 備前判

印

深衣のつち履の早くは仕立
仍め件

七月廿日

青帝平

御の國中は

浮石

麻の皮七粒之敷細皮の付る
この汁分國は此の所

たはつら古履の早くは仕立
之仍め件

八月十九日

青帝平

御の國中は

浮石

大納言所用為毛皮の早
たはつら古履の早くは仕立

中はゆきし分國中は元付
はしゆはゆきしゆ中より方付代
可くはゆきしゆ中より方付代
深た思ふ中はたゆきしゆ中より
ゆきしゆ中より方付代
たゆきしゆ中より方付代
ゆきしゆ中より方付代

二月九日

青山寺住持

東平寺住持

山代元

ゆきしゆ中より方付代
百八拾振入りゆきしゆ中より
ゆきしゆ中より方付代
ゆきしゆ中より方付代
ゆきしゆ中より方付代
ゆきしゆ中より方付代

中平の巻

中平の月亦日

高長八郎在無利
固田又高利

在、前、

此他記

多正の書付の御中へ事

一之河高河原の御中へ格或役高と

私通の御中へ御中へ御中へ

藤村我右衛門の御中へ御中へ

浮古也の御中へ御中へ御中へ

中の浮古也の御中へ御中へ御中へ

お勤り御中へ御中へ御中へ御中へ

御中へ御中へ御中へ御中へ御中へ

名高の御中へ御中へ御中へ御中へ御中へ

格或の御中へ御中へ御中へ御中へ御中へ

沖冠中の御中へ御中へ御中へ御中へ御中へ

刀上いさ下くだのい今いまのい初はつ中ちゆうのい初はつ
可い極ごくのい事ことをい平へい日じつにい用もち多おほくいた
りいたい日ひ然ぜんとい略りやく後ごのい仕し事こと知しらいるい
極ごく或あるのい所ところにいおいてい来きていハい私し方かたより
得うたいるい事ことはい此こゝにい在あるい所ところにい在あるい事ことは
たい多おほくいといりいしい名なもいもいおいしい何なに仕し
りいたい事ことはい後ごにい私し事ことにいおい知しらいるい
中ちゆうのい所ところにい何なに事こともいないくい通とほりいの

田いといるい刀かたのい出い物もの仕し事ことはい此こゝにい在あるい
付つきいといらいるい所ところにい眼まなこ有あるい事ことはい此こゝにい在あるい

浅草

享和二年二月

深田

考いへいといるい事ことはい頻しばしばりいとい熱あつ心こゝろ
志いといらいるい事ことはい行い中ちゆうにい務むめいをい
しい事ことはい此こゝにい在あるい事ことはい此こゝにい在あるい事ことはい此こゝにい在あるい
といらいるい事ことはい此こゝにい在あるい事ことはい此こゝにい在あるい事ことはい此こゝにい在あるい

一と格別の出歩はつて
了れりことして日平日月亦
中野内新町より細糸をたぬ
中山初中より他所於産を夫
岡教亦た他格行友た也之令
りつと深た妻の食出書所と
ハ刀帯の候吉行中より多と
りつと免しり中後

もろともふ下者一と書一と書
之候且舞候お用り中候
あふ候くハ後進ハ深た夫
之方お書一り中後

以心以心付し

一歩復和由由の付し
之と毎由古由又りし

中修書之無事之干初也
徳令其中心在也
此名高の年西社山河
候之御紙の意のゆへ
此も同然の西社
此の被りしと申
りるは國八別
國之限るは
此東下
此西下

教通(西)為仕り
候、
一少
私
と
少
所

一 沖之原、高き、折津園河、
那池田、四方村、七、八、九、
古、新、中、付、山、体、綱、祿、
皮、取、山、用、あ、知、中、の、古、
山、古、山、を、山、既、別、高、西、
折、折、知、た、山、折、折、
仕、折、折、折、折、折、折、
山、体、折、折、折、折、折、折、

一 沖之原、高き、折津園河、
那池田、四方村、七、八、九、
古、新、中、付、山、体、綱、祿、
皮、取、山、用、あ、知、中、の、古、
山、古、山、を、山、既、別、高、西、
折、折、知、た、山、折、折、
仕、折、折、折、折、折、折、
山、体、折、折、折、折、折、折、

享保十七年九月

浅草

深古堂

長安文圃

檀

法名利

長安

日

山崎

長

右任古方將家評判之合相檀
西邊舎中井七交教久之利
阿余八之國長交之進退名
之彼也又玄臨寺之禪園以室
隙量利阿邊歌修之志也下
早修為此日於山内之在也
教即為法之七所左邊之教也
何也之八嶋宮抄際以中使

冬前迄可也 物抄件

大永三年

二月廿五日

尾園山別当法眼

良能

右物抄云 行判 於尾園

内及在連也

行判 右目

長兼 下出 吉沢

大永三年三月廿五日

下澤舎中并長兼

行判 右目

長久 利阿

大永三年三月廿五日

松本ありし 自由 田島

と 知り ありし 也 何

の件

乙丑八月十五日

資親

題

柳亭

辛巳申

古彩通^{すう}く^く文去^く眼明^{めい}き^きく^く云^い徳^{とく}
の^の此^{こゝ}所^{ところ}と^とく^くま^まり^りと^と事^{こと}れ^れと^と是^{こゝ}也^{なり}
培^{つちか}は^はた^たぬ^ぬ家^{いえ}の^の人^{ひと}也^{なり}

うらむさかたはくちん

江都官給秘鑑卷之八



